



大腸がんによる死亡数、罹患数は年々増加傾向にあり、2016年の人口動態統計によると、大腸がんが原因での死亡者数は男性が3位、女性が1位と上位ランクを占めています。大腸がんと診断される患者さんの数(罹患数)は年間約11万人で年々増えています。

ここでは、2009年から徳島健生病院で行っている大腸CT検査(仮想内視鏡検査、大腸3D-CT検査)についてご紹介します。



徳島健生病院で大腸CT検査を開始し5年、2014年12月に受診者が1000名を超えました。

特に、2014年6月に徳島新聞に当院の大腸CT検査が紹介されたことで県内全域から多くの方が来院され、検査数は年間400件ペースとなっています。

大腸がんは、我が国における女性のがんによる死亡者数の1位となっています。しかし、日本の便鮮血陽性者の精密検査受診率は約半分しかありません。その理由は、「大腸内視鏡検査が怖い」というもので、新聞で大腸CT検査が紹介されると「今まで便鮮血陽性だったけど怖くて受けなかった。」という多くの方が検査を受けに来られました。

当院の大腸CT検査では、大腸に空気の130倍吸収が早い炭酸ガスを送気してCT撮影を行い、大腸の三次元画像を作成します。ガスを用いて大腸を拡張するので、検査後の腹部膨満感がほとんどありません。前処置も、これまでの内視鏡・CT検査では下剤を1800cc飲む必要があったのが、800ccに減らし、なおかつ2回に分けて飲むように工夫しており、患者さんの負担軽減になっています。撮影は仰向けと、うつ伏せで2回行います。息止め時間は約10秒です。検査そのものは、約15分程度で終了します。

検査を受けた多くの方は「こんなに楽な検査があるのを知っていたら早く受けていたのに」と言われます。楽な大腸CT検査の役割は「検査が怖くて受けなかった方に検査を受けていただき、日本のがん死亡者数を減少させる」ことにあります。

当院のポリープ検出精度は5mm以上(ポリープ切除対象)の検出率で96%です。また多くの講演や学会報告、論文執筆などで全国的にも有名となり、消化管先進画像診断研究会において、四国地区の代表世話人となりました。負担が軽く精度の高い検査をどこでも受けられるように、技術を広め、地域の健康に貢献していきます。

(健康生協機関紙「健康と生活」2015年4月号より抜粋、加筆しました)

私、岩野晃明(放射線科技師)が共同執筆した「これ1冊でわかる! 大腸CT プロフェッショナル 100のレシピ」が2015/9/25発売されました。



病院実習にお越しの際は、放射線科にもぜひお立ち寄りください。



受診された方の声



2013年の2月頃に健生病院の検診で便潜血陽性反応が出て、大腸CTか内視鏡を勧められましたが、「自分の年齢ではまだ早いのでは…」と思って様子を見ることにしました。1年後の便潜血検査で、またしても陽性が…。気になりつつも、なんとなく毎日が過ぎていきました。けれど心配になり同年の11月頃に再度検査をしましたが、やはり陽性。さすがに放っておくことができず、徳島健生病院の大腸CTを受けてみることにしました。

結果は25mmのポリープ1つ(ガンでした…)10mm未満のポリープ3つが見つかり、ショッキングなものとなりました。その後即、内視鏡手術でポリープを無事除去することができました。私は今年38歳です。「若いから大丈夫だろう」とか「自分に限って」などと思うのは大きな間違いということが分かりました。